

近年激発しているナシ主要害虫の発生消長の解明と対策技術の開発 (農林センター)

ナシで近年激発しているハダニ類およびナシヒメシンクイの発生消長を把握し、効率的な防除方法を開発しました。

近年激発しているナシの害虫の防除技術

ハダニ類

クワオオハダニ発生の発生率が高いことを確認！

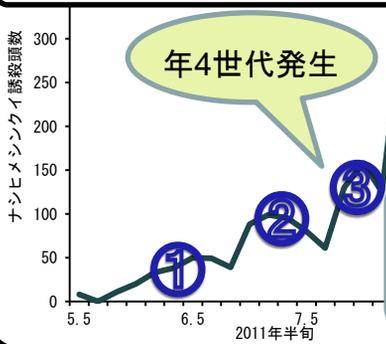
新顔です

- ・発生時期が5月中旬(カンザワハダニは6月中旬)
- ・感受性が低い農薬がある

- ・要防除時期は6月中旬から
- ・丹後地域のクワオオハダニの殺ダニ剤感受性を検定
- ・春季マシン油散布を行うと6~7月のクワオオハダニ発生量を抑えることができる

ナシヒメシンクイ

発生消長把握！



- ・発生回数4回に増加(これまで3回)
- 要防除時期が変化

- ・有効積算平均温度384°Cを利用することで防除適期が1半月程度の誤差で予測可能
- ・果実袋{日本農業資材(青ナシ用:「キュット」特1号L、赤ナシ用:クラフつかっ色合わせ-2L)、トリカ(青ナシ用:撥水H-57L、赤ナシ用87-2L)}を使用することで、シンクイムシ類被害率を2%以下に軽減

- ・クワオオハダニには薬剤感受性が低くない殺ダニ剤を使用することが必要
- ・春季マシン油散布でクワオオハダニの発生を抑えられるため、殺ダニ剤の使用回数を抑えることが可能
- ・本試験で使用した果実袋を使うことでシンクイムシ類の被害軽減が可能

- ・春季マシン油散布によって殺ダニ剤使用回数を減らすことができ、ニセナシサビダニやカイガラムシ類も効率的に同時防除できます。
- ・本試験で選択した果実袋の価格は従来品と変わらないため、新たな経費はかかりません。